

中小企業等担当者向けテレワークセキュリティの手引き（チェックリスト）関連資料

設定解説資料 (ウイルスバスター ビジネスセキュリティサービス)

Ver1.2 (2025.03)

本書は、総務省の調査研究事業により作成したものです。

本書に関する問い合わせ先（個別のシステムおよび環境に関する御質問については、製品の開発元にお問い合わせください。）

総務省 サイバーセキュリティ統括官室

Email telework-security@ml.soumu.go.jp

URL https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/cybersecurity/telework/

目次

1 はじめに	3
2 チェックリスト項目に対応する設定作業一覧.....	4
3 管理者向け設定作業.....	6
3-1 チェックリスト 2-1 への対応	6
3-1-1 ポリシー設定－Windows 端末の設定.....	6
3-1-2 ポリシー設定－グローバルセキュリティエージェント設定	16
3-1-3 ポリシー設定－macOS 端末の設定	19
3-1-4 ポリシー設定－Android 端末の設定	25
3-2 チェックリスト 7-3 への対応	27
3-2-1 ログの確認.....	27
3-2-2 レポート設定.....	29
4 利用者向け作業	31
4-1 チェックリスト 2-1 への対応	31
4-1-1 リアルタイム検索と自動アップデート	31

1 はじめに

（ア）本書の目的

本書は、「中小企業等担当者向けテレワークセキュリティの手引き（チェックリスト）」の第 2 部に記載されているチェックリスト項目について、トレンドマイクロ社の中小企業向けセキュリティ対策製品を利用する際の具体的な作業内容の解説をすることで、管理者が実施すべき設定作業や利用者が利用時に実施すべき作業の理解を助けることを目的としています。

（イ）前提条件

トレンドマイクロ社の中小企業向けセキュリティ対策製品として、「ウイルスバスター ビジネスセキュリティ（有償）」「ウイルスバスター ビジネスセキュリティサービス（有償）」が存在します。（2024 年 11 月 5 日現在）利用する製品により使用可能な機能が異なります。**本資料では「ウイルスバスター ビジネスセキュリティサービス」の利用を前提としております。**

（ウ）本書の活用方法

本書は、中小企業のセキュリティ管理担当者やシステム管理担当者（これらに準ずる役割を担っている方を含みます）を対象として、その方々がチェックリスト項目の具体的な対策を把握できるよう、第 2 章ではチェックリスト項目に紐づけて解説内容と解説ページを記載しています。本書では第 3 章にて管理者向けに、第 4 章では利用者向けに設定手順や注意事項を記載しています。

表 1. 本書の全体構成

章題	概要
1 はじめに	本書を活用するための、目的、本書の前提条件、活用方法、免責事項を説明しています。
2 チェックリスト項目と設定解説の対応表	本書で解説するチェックリスト項目と、その項目に対応する設定作業手順および注意事項の解説が記載されたページを記載しています。
3 管理者向け設定作業	対象のチェックリスト項目に対する管理者向けの設定手順や注意事項を解説しています。
4 利用者向け作業	対象のチェックリスト項目に対する利用者向けの設定手順や注意事項を解説しています。

（エ）免責事項

本資料は現状有姿でご利用様に提供するものであり、明示であると黙示であることを問わず、正確性、商品性、有用性、ご利用様の特定の目的に対する適合性を含むその他の保証を一切行うものではありません。本資料に掲載されている情報は、2024 年 11 月 5 日時点の各製品の操作画面を基に作成しており、その後の製品仕様の更新、追加、変更、削除もしくは部分改廃により、画面表示等に差異が生じる可能性があります。本資料は、初期出荷状態の製品を単体動作させている環境を利用して設定手順を解説しています。本製品をご利用様の業務環境で利用する際には、本資料に掲載している設定により業務環境システムに影響がないかをご利用様の責任にて確認の上、実施するようにしてください。本資料に掲載されている製品仕様・設定方法について不明点がありましたら、製品提供元へお問い合わせください。

2 チェックリスト項目に対応する設定作業一覧

本書で解説しているチェックリスト項目、対応する設定作業解説および注意事項が記載されているページは下記のとおりです。

表 2. チェックリスト項目と管理者向け設定作業の紐づけ

チェックリスト項目	対応する設定作業	ページ
2-1 マルウェア対策	・ ポリシー設定 – Windows 端末の設定	P.6
テレワーク端末にウイルス対策ソフトをインストールし、リアルタイムスキャンを有効にする。ウイルス対策ソフトの定義ファイルを自動更新する設定にするか、手動で更新するルールを作成する。	・ ポリシー設定 – グローバルセキュリティエージェント設定	P.6
	・ ポリシー設定 – macOS 端末の設定	P.19
	・ ポリシー設定 – Android 端末の設定 3 - 1 - 1	P.25
7-3 インシデント対応・ログ管理	・ ログの確認	P.27
テレワーク端末からオフィスネットワークに接続する際のアクセスログを収集する。	・ レポート設定	P.29

表 3. チェックリスト項目と利用者向け作業の紐づけ

チェックリスト項目	対応する設定作業	ページ
2-1 マルウェア対策 テレワーク端末にウイルス対策ソフトをインストールし、リアルタイムスキャンを有効にする。ウイルス対策ソフトの定義ファイルを自動更新する設定にするか、手動で更新するルールを作成する。	・ リアルタイム検索と自動アップデート	P.31

3 管理者向け設定作業

ここでは「中小企業等担当者向けテレワークセキュリティの手引き（チェックリスト）」の第2部に記載されているチェックリスト項目のうち、本製品の管理者が実施すべき対策の設定手順や注意事項を記載します。

3-1 チェックリスト 2-1 への対応

3-1-1 ポリシー設定 – Windows 端末の設定

ここでは、Windows 端末のマルウェア対策に関わるポリシーを設定します。

【手順①】

管理コンソール画面で「ポリシー画面（デバイス（初期設定））」をクリックします。



【手順②】

「ポリシーの設定：デバイス（初期設定）」画面が開くので、Windows のアイコンをクリックします。



脅威からの保護機能：検索設定

「検索設定」をクリックすると、「検索方法」「リアルタイム検索」「予約検索」「手動検索」の設定をすることができます。
（以下の記載例はデフォルトの設定）

「検索方法」は「スマートスキャン（推奨）」を選択します。

ポリシーの設定: デバイス（初期設定）

対象とサービスの設定

検索設定

挙動監視

機械学習型検索

仮想バッチ

Webレビテーション

ファイアウォール設定

情報漏えい対策

デバイスコントロール

情報漏えい対策

アクセスコントロール

URLフィルタ

アプリケーションコントロール

除外リスト

検索除外

承認済み/ブロックするURL

エージェントの設定

権限および他の設定

検索設定

検索方法

スマートスキャン（推奨）

従来型スキャン

スマートスキャンでは、インターネットクラウドに格納されている不正プログラム対策シグネチャおよびスバイウェア対策シグネチャが利用されます。
従来型スキャンは、セキュリティエージェントのローカルに格納されている不正プログラムやスバイウェア対策コンポーネントを利用します。

リアルタイム検索

ファイルを受信、開く、ダウンロード、コピー、または変更したときに、セキュリティ上のリスクがあるかファイルを検索します。

オン

設定

予約検索

設定された時間及び頻度で検索を実行します。予約検索を使用すると、エンドポイントでの定期的な検索を自動化し、脅威の管理を効率化することができます。

オフ

手動検索

Webコンソール上の [セキュリティエージェント] 画面またはセキュリティエージェントコンソールから開始される手動検索です。

設定

保存

キャンセル

7 / 39

●「リアルタイム検索」の設定

「リアルタイム検索」欄で「設定」をクリックし「リアルタイム検索設定」画面を開きます。

リアルタイム検索

ファイルを受信、開く、ダウンロード、コピー、または変更したときに、セキュリティ上のリスクがあるかファイルを検索します。

☒ オン

設定

必要に応じて、リアルタイム検索の設定を変更します。

（以下の記載例はデフォルトの設定）

リアルタイム検索設定

対象

処理

検索設定

検索するファイル:

- ☐ 検索可能なすべてのファイル
- ☒ トレンドマイクロの推奨設定で検索されるファイルタイプ ①
- ☐ 指定された拡張子を持つファイル

ファイルに対するユーザのアクティビティ

- ☒ 作成、変更、またはファイルの読み込み
- ☐ ファイルの読み込み
- ☐ 作成または変更

詳細設定

- ☐ POP3メッセージを検索する
- ☒ IntelliTrapを有効にする ①
- ☒ メモリで検出された不正プログラムの変種/亜種を隔離する ①

注意: この機能を使用するには、管理者がリアルタイム検索と挙動監視を有効にしている必要があります。

- ☐ ネットワークドライブおよび共有フォルダを検索する
- ☐ システムのシャットダウン時にフロッピーディスクを検索する
- ☒ 圧縮ファイルの検索 ①

最大階層数:

- ☒ ユーザの許可なくプロセスを終了する可能性のあるアプリケーションを検索

リアルタイム検索設定

対象

処理

ウイルス/不正プログラム

- ☒ トレンドマイクロの推奨処理 ①
- ☐ カスタマイズ処理
- ☒ 駆除前にファイルをバックアップする

スパイウェア/グレーウェア

- ☒ 駆除

プロセスを終了するか、レジストリ、Cookie、およびショートカットを削除する

- ☐ アクセス拒否

検出されたファイルへのアクセスをブロックする

●「予約検索」の有効化と設定

「予約検索」欄で設定をオンにすると「頻度（月 1 回/週 1 回/毎日）」「間隔（日曜から土曜の曜日指定）」「開始時刻」を指定できます。「設定」をクリックすると「予約検索設定」画面が開きます。

予約検索

設定された時間及び頻度で検索を実行します。予約検索を使用すると、エンドポイントでの定期的な検索を自動化し、脅威の管理を効率化することができます。

☒ オン

頻度: 週1回

間隔: 月曜日

開始時刻: 12 : 30 時分

設定

必要に応じて、予約検索の設定を変更（※）します。

（以下の記載例はデフォルトの設定）

予約検索設定

対象 処理

検索設定

検索するファイル:

- ☒ 検索可能なすべてのファイル
- ☐ トレンドマイクロの推奨設定で検索されるファイルタイプ ⓘ
- ☐ 指定された拡張子を持つファイル
- ☒ 圧縮ファイルの検索 ⓘ

最大階層数: 2 ▲

詳細設定

- ☒ IntelliTrapを有効にする ⓘ
- ☒ システム領域を検索する

CPU使用率

- ☒ 高 一時中断せずに連続してファイルを検索する
- ☐ 中 CPU使用率が50%を超えた場合にファイル検索の合間に一時中断し、50%以下の場合は一時的に中断しない
- ☐ 低 CPU使用率が20%を超えた場合はファイル検索の合間に一時中断して間隔をあげ、20%以下の場合は一時的に中断しない

ファイル検索の合間にセキュリティエージェントが待機する時間は、CPU使用率を左右します。使用レベルを [低] に設定すると、ファイル検索の合間の待機時間が長くなり、その分CPUリソースが開放されます。

ウイルス/不正プログラム

- ☒ トレンドマイクロの推奨処理 ⓘ
- ☐ カスタマイズ処理
- ☒ 駆除前にファイルをバックアップする

スパイウェア/グレイウェア

- ☒ 駆除 プロセスを終了するか、レジストリ、Cookie、およびショートカットを削除する
- ☐ 放置 スパイウェア/グレイウェア検出結果を診断のために記録します

※ 「グローバルセキュリティエージェント設定」の「セキュリティ設定」の「一般検索」の「行われなかった予約検索を翌日の同じ時刻に実行」にチェックしておくことで予約検索が実行できなかった場合、翌日に実行するように設定できます。この項目はデフォルトでチェックが入っています。

●手動検索の設定

「手動検索」欄で「設定」をクリックし、「手動検索設定」画面を開きます。

手動検索

Webコンソール上の [セキュリティエージェント] 画面またはセキュリティエージェントコンソールから開始される手動検索です。

設定

必要に応じて、手動検索の設定を変更します。

（以下の記載例はデフォルトの設定）

手動検索設定

対象 処理

検索設定

検索するファイル:

☒ 検索可能なすべてのファイル

☐ トrendマイクロの推奨設定で検索されるファイルタイプ ⓘ

☐ 指定された拡張子を持つファイル

☐ ネットワークドライブおよび共有フォルダを検索する

☒ 圧縮ファイルの検索 ⓘ

最大階層数: 2 ▲

詳細設定

☒ IntelliTrapを有効にする ⓘ

☒ システム領域を検索する

手動検索設定

対象 処理

CPU使用率

☒ 高 一時中断せずに連続してファイルを検索する

☐ 中 CPU使用率が50%を超えた場合にファイル検索の合間に一時中断し、50%以下の場合是一時中断しない

☐ 低 CPU使用率が20%を超える場合はファイル検索の合間に一時中断して間隔をあげ、20%以下の場合是一時中断しない

ファイル検索の合間にセキュリティエージェントが待機する時間は、CPU使用率を左右します。使用レベルを [低] に設定すると、ファイル検索の合間の待機時間が長くなり、その分CPUリソースが開放されます。

ウイルス/不正プログラム

☒ トrendマイクロの推奨処理 ⓘ

☐ カスタマイズ処理

☒ 駆除前にファイルをバックアップする

スパイウェア/グレーウェア

☒ 駆除

プロセスを終了するか、レジストリ、Cookie、およびショートカットを削除する

☐ 放置

スパイウェア/グレーウェア検出結果を診断のために記録します

（参考）脅威からの保護機能：挙動監視

「挙動監視」を開くと「不正プログラム挙動ブロック」「ランサムウェア対策」「脆弱性対策」「イベント監視」の設定をすることができます。

（以下の記載例はデフォルトの設定）



● イベント監視の有効化と設定

「イベント監視」欄から、この設定をオンにすると、監視するシステムのイベントを指定することができます。

（以下の記載例はデフォルトの設定）

イベント監視

システムイベントを監視して潜在的に不正な処理を検出します ⓘ

☒ オン

☐ 監視システムイベントの指定

イベント	処理
<input checked="" type="checkbox"/> スタートアッププログラムの追加	必要に応じて問い合わせ ▼
<input checked="" type="checkbox"/> Hostsファイルの変更	常にブロック ▼
<input checked="" type="checkbox"/> DLL (プログラムライブラリ) インジェクション	必要に応じて問い合わせ ▼
<input checked="" type="checkbox"/> Internet Explorerプラグインの追加	必要に応じて問い合わせ ▼
<input checked="" type="checkbox"/> Internet Explorer設定の変更	常にブロック ▼
<input checked="" type="checkbox"/> シェル設定の変更	必要に応じて問い合わせ ▼
<input checked="" type="checkbox"/> サービスの追加	必要に応じて問い合わせ ▼
<input checked="" type="checkbox"/> セキュリティポリシー設定の変更	常にブロック ▼
<input checked="" type="checkbox"/> ファイアウォールポリシー設定の変更	必要に応じて問い合わせ ▼
<input checked="" type="checkbox"/> システムファイルの変更	常にブロック ▼
<input checked="" type="checkbox"/> システムファイルの複製	必要に応じて問い合わせ ▲
<input checked="" type="checkbox"/> システムプロセスの変更	常にブロック ▲
<input checked="" type="checkbox"/> 不審な挙動	常にブロック ▲

（参考）脅威からの保護機能：機械学習型検索

「機械学習型検索」を開くと、検出時の処理（ファイル：隔離/ログのみ、プロセス：終了/ログのみ）の設定ができます。

この機能は、デフォルトで ON になっています。（以下の記載例はデフォルトの設定）

ポリシーの設定: デバイス (初期設定)

対象とサービスの設定

脅威からの保護機能

検索設定

挙動監視

機械学習型検索

仮想パッチ

Webレピュテーション

ファイアウォール設定

情報漏えい対策

機械学習型検索 ⓘ

トレンドマイクロの機械学習型検索は、高度な機械学習テクノロジーを使用して、あまり普及していない不審プロセスやファイルに含まれる未知のセキュリティリスクを検出します。

☒ オン

注意:

- 機械学習型検索を使用するには、挙動監視を有効にする必要があります。
- インターネット接続を利用できない場合は、機械学習型検索ローカルモデル (ファイル検出) を使用してポータブル実行可能ファイルの脅威に対する保護が継続されます。

検出設定

種類	処理
<input checked="" type="checkbox"/> ファイル	隔離 ▼
<input checked="" type="checkbox"/> プロセス	終了 ▼ ⓘ

12 / 39

（参考）脅威からの保護機能：Web レピュテーション

「Web レピュテーション」の設定により、不正な Web サイトをブロックし端末を保護することができます。

（以下の記載例はデフォルトの設定）



（参考）エージェントの設定：権限およびその他の設定

●権限の設定

テレワークをしているユーザ側で設定変更を行える項目を指定できます。

ポリシーの設定: デバイス (初期設定)

手動監視

機械学習型検索

仮想パッチ

Webレビュテーション

ファイアウォール設定

情報漏えい対策

デバイスコントロール

情報漏えい対策

アクセスコントロール

URLフィルタ

アプリケーションコントロール

除外リスト

検索除外

承認済み/ブロックするURL

エージェントの設定

権限およびその他の設定

権限およびその他の設定

権限

アラート

その他設定

指定した設定をセキュリティエージェント上で変更することをユーザに許可します。

検索の種類

手動検索

予約検索

リアルタイム検索

予約検索

予約検索の有効化/無効化

予約検索をスキップおよび停止

予約検索の延期

ファイアウォール設定

ファイアウォールの設定の表示

ファイアウォールの有効化/無効化

Webレビュテーション

エンドポイントを再起動するまで特定の不正URLの閲覧を許可

URLフィルタ

エンドポイントを再起動するまで特定の禁止URLの閲覧を許可

挙動監視

挙動監視設定の表示および変更

エージェントのアラート

アラート設定の変更

14 / 39

●アラートの設定

指定したイベントが発生した時に、各端末のセキュリティエージェントアイコンの上にアラートを表示させることができます。

ポリシーの設定: デバイス (初期設定)

対象とサービスの設定

Android

Mac

Windows

iOS

Linux

脅威からの保護機能

検索設定

挙動監視

機械学習型検索

仮想パッチ

Webレピューテーション

ファイアウォール設定

情報漏えい対策

デバイスコントロール

情報漏えい対策

アクセスコントロール

URLフィルタ

アプリケーションコントロール

除外リスト

検索除外

承認済み/ブロックするURL

エージェントの設定

権限およびその他の設定

権限およびその他の設定

権限

アラート

その他設定

指定したイベントが発生すると、セキュリティエージェントアイコン上部にアラートが表示されます。

脅威からの保護機能

☐ リアルタイム検索

☐ 予約検索

☐ 挙動監視

☐ 機械学習型検索

☐ Webレピューテーション

☐ ファイアウォール設定

情報漏えい対策

☐ デバイスコントロール

☐ 情報漏えい対策

アクセスコントロール

☐ アプリケーションコントロール

☐ URLフィルタ

その他設定

☒ ブロックされたHTTP/2 URL ①

保存

キャンセル

15 / 39

●その他設定

セルフプロテクションの設定ができます。これにより、不正なプログラムや実際のユーザがセキュリティエージェントを無効化することを防ぎます。



3-1-2 ポリシー設定－グローバルセキュリティエージェント設定

この項目では、すべてのセキュリティエージェントに適用される設定を行います。様々な設定を自社の環境に応じて設定することで、テレワーク端末がマルウェアに感染した場合に即座に検知、防御することができます。

【手順①】

管理コンソール画面で「ポリシー」を開きます。



【手順②】

「グローバルセキュリティエージェント設定」の「セキュリティ設定」から、「一般検索」「ウイルス検索」「スパイウェア/グレーウェア検索」「挙動監視」「HTTPS Web 評価」といった項目を必要に応じて設定・変更します。

（以下の記載例はデフォルトの設定）

<p>ポリシー設定</p> <p>追加の設定</p> <p>グローバルセキュリティエージェント設定</p> <p>グローバル除外リスト</p> <p>ポリシーリソース</p> <p>アプリケーションコントロールルール</p>	<h3>グローバルセキュリティエージェント設定 ②</h3> <p>グローバル設定はサポートされるすべてのセキュリティエージェントに適用されます。</p> <p>セキュリティ設定 エージェントコントロール</p> <h4>一般検索</h4> <p><input type="checkbox"/> 遅延検索を有効にする 注意: この機能を有効にすると、ファイルをコピーする際の検索処理のタイミングが遅延します。パフォーマンスは向上しますが、セキュリティリスクをもたらす可能性があります。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> Microsoft Exchange Server 2003フォルダを除外する ①</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> Microsoftドメインコントローラフォルダを除外する (スパイウェア/グレーウェアの手動および予約検索には適用できません)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> シャドウコピーセクションの除外 ①</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 行われなかった予約検索を翌日の同じ時刻に実行</p>
<p>ポリシー設定</p> <p>追加の設定</p> <p>グローバルセキュリティエージェント設定</p> <p>グローバル除外リスト</p> <p>ポリシーリソース</p> <p>アプリケーションコントロールルール</p>	<h3>ウイルス検索</h3> <p><input checked="" type="checkbox"/> 圧縮ファイルの検索制限 圧縮ファイルのサイズが <input type="text" value="2"/> MBを超える場合はファイルを検索しない (1-1000)</p> <p>圧縮ファイル内では、最初のファイルから <input type="text" value="100"/> 番目までのファイルを検索する (1-100000)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 圧縮ファイルのウイルス駆除</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> OLEオブジェクトを <input type="text" value="3"/> 階層まで検索</p> <p><input type="checkbox"/> エンドポイントのWindowsショートカットメニューに手動検索を追加</p> <h3>スパイウェア/グレーウェア検索</h3> <p><input type="checkbox"/> Cookieの検索 ①</p> <h3>挙動監視</h3> <p><input type="checkbox"/> 危険度の低い変更、またはその他の監視対象処理に対する警告メッセージを有効化する</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> HTTPまたはメールを介してダウンロードされた「新しく検出されたプログラム」を開く前にユーザに通知する (サーバOSは対象外) ① 注意: リアルタイム検索またはWebレピュテーションで新しいプログラムが検出されたときに通知が表示されます。</p>
	<h3>HTTPS Web評価</h3> <p><input checked="" type="checkbox"/> Chrome、FirefoxおよびMicrosoft EdgeでWebレピュテーションとURLフィルタリングのHTTPS確認を有効にする ① 注意: この機能を使用するには、管理者がポリシー管理で不正変更防止サービスを有効にする必要があります。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 機能アップデートによりChromeまたはFirefoxの再起動が必要になった場合、セキュリティエージェントで、アイコンの上部に通知を表示する</p> <p><input type="button" value="保存"/></p>

【手順③】

「グローバルセキュリティエージェント設定」の「エージェントコントロール」から、「警告」「セキュリティエージェントのログ」「監視サービス」「管理者への問い合わせの通知」「アンインストール」「終了/ロック解除」といった項目を必要に応じて設定します。
（以下の記載例はデフォルトの設定）

ポリシー設定

追加の設定

グローバルセキュリティエージェント設定

グローバル除外リスト

ポリシーリソース

アプリケーションコントロールルール

グローバルセキュリティエージェント設定

グローバル設定はサポートされるすべてのセキュリティエージェントに適用されます。

セキュリティ設定 エージェントコントロール

警告

☒ 7 日経過してもウイルスパターンファイルがアップデートされていない場合、Windowsタスクバーに警告アイコンを表示する

セキュリティエージェントのログ

☒ WebレピューションおよびURLフィルタのログをサーバに送信する

☒ 脅威イベントの詳細を強化型脅威分析のためにサーバに送信する

追加の設定

グローバルセキュリティエージェント設定

グローバル除外リスト

ポリシーリソース

アプリケーションコントロールルール

監視サービス

☒ セキュリティエージェントの監視サービスを有効にする:

セキュリティエージェントのステータスを 1 分間隔で確認

セキュリティエージェントを再起動できない場合、5 回まで再試行

管理者への問い合わせの通知

☐ セキュリティエージェントに管理者への問い合わせ情報を表示する

アンインストール

☐ セキュリティエージェントのアンインストール時にパスワード入力进行を要求する

終了/ロック解除

☐ セキュリティエージェントの終了時、または詳細設定のロック解除時にパスワード入力进行を要求する

保存

3-1-3 ポリシー設定 – macOS 端末の設定

この項では、macOS 端末のマルウェア対策に関わるポリシーを設定します。

【手順①】

管理コンソール画面で「ポリシー画面（デバイス（初期設定））」をクリックします。



【手順②】

「ポリシーの設定：デバイス（初期設定）画面」が開くので、Apple のアイコンをクリックします。



脅威からの保護機能：検索設定

「検索設定」をクリックすると、「検索方法」「リアルタイム検索」「予約検索」「手動検索」の設定をすることができます。

（以下の記載例はデフォルトの設定）

「検索方法」は「スマートスキャン（推奨）」を選択します。

20 / 39

●「リアルタイム検索」の設定

「リアルタイム検索」欄で「設定」をクリックし「リアルタイム検索設定」画面を開きます。

リアルタイム検索

ファイルを受信、開く、ダウンロード、コピー、または変更したときに、セキュリティ上のリスクがあるかファイルを検索します。

☒ オン

設定

必要に応じて、リアルタイム検索の設定を変更します（。以下の記載例はデフォルトの設定）

リアルタイム検索設定

対象

ファイルに対するユーザのアクティビティ

☐ 作成、変更、ファイルの読み込み、または実行

☒ 作成、変更、または実行

☐ 作成または変更

☐ ファイルの読み込み、または実行

☐ 圧縮ファイルの検索

処理

☒ トレンドマイクロの推奨処理 ⓘ

☐ カスタマイズ処理

●「予約検索」の有効化と設定

「予約検索」欄で設定をオンにすると「頻度（月 1 回/週 1 回/毎日）」「間隔（日曜から土曜の曜日指定）」「開始時刻」を指定できます。「設定」をクリックすると「予約検索設定」画面が開きます。

予約検索

設定された時間及び頻度で検索を実行します。予約検索を使用すると、エンドポイントでの定期的な検索を自動化し、脅威の管理を効率化することができます。

☒ オン

頻度: 週1回

間隔: 月曜日

開始時刻: 12 : 30 時分

設定

必要に応じて、予約検索における設定を変更（※）します。（以下の記載例はデフォルトの設定）

予約検索設定

対象

検索するファイル:

☐ 検索可能なすべてのファイル

☒ トrendマイクロの推奨設定で検索されるファイルタイプ ⓘ

☐ 指定されたファイルおよびフォルダ

☐ 圧縮ファイルの検索

CPU使用率

☐ 高 一時中断せずに連続してファイルを検索する

☒ 低 CPU使用率が20%を超える場合はファイル検索の合間に一時中断して間隔をあげ、20%以下の場合は一時中断しない

ファイル検索の合間にセキュリティエージェントが待機する時間は、CPU使用率を左右します。使用レベルを [低] に設定すると、ファイル検索の合間の待機時間が長くなり、その分CPUリソースが開放されます。

処理

☒ トrendマイクロの推奨処理 ⓘ

☐ カスタマイズ処理

「グローバルセキュリティエージェント設定」の「セキュリティ設定」の「一般検索」の「行われなかった予約検索を翌日の同じ時刻に実行」にチェックしておくことで予約検索が実行できなかった場合、翌日に実行するように設定できます。デフォルトはチェックが入っています。

●「手動検索」の設定

「手動検索」欄で「設定」をクリックし「手動検索設定」画面を開きます。

手動検索

Webコンソール上の [セキュリティエージェント] 画面またはセキュリティエージェントコンソールから開始される手動検索です。

設定

必要に応じて、手動検索の設定を変更します。（以下の記載例はデフォルトの設定）

手動検索設定

対象

検索するファイル:

☒ 検索可能なすべてのファイル

☐ Mach-Oファイルのみ ⓘ

☐ 圧縮ファイルの検索

CPU使用率

☐ 高 一時中断せずに連続してファイルを検索する

☒ 低 CPU使用率が20%を超える場合はファイル検索の合間に一時中断して間隔をあげ、20%以下の場合は一時中断しない

ファイル検索の合間にセキュリティエージェントが待機する時間は、CPU使用率を左右します。使用レベルを [低] に設定すると、ファイル検索の合間の待機時間が長くなり、その分CPUリソースが開放されます。

処理

☒ トrendマイクロの推奨処理 ⓘ

☐ カスタマイズ処理

（参考）脅威からの保護機能：機械学習型検索

「機械学習型検索」をオンに設定することで、機械学習型検索を有効にできます。この機能は、デフォルトで ON になっています。（以下の記載例はデフォルトの設定）

ポリシーの設定: デバイス (初期設定)

対象とサービスの設定

脅威からの保護機能

● 検索設定

● **機械学習型検索**

● Webシミュレーション

機械学習型検索 ⓘ

トレンドマイクロの機械学習型検索は、高度な機械学習テクノロジーを使用して、不審なファイルに含まれる未知のセキュリティリスクを検出します。

☒ オン

（参考）脅威からの保護機能：Web レピュテーション

Web レピュテーションの設定により、不正な Web サイトをブロックし端末を保護することができます。

（以下の記載例はデフォルトの設定）



（参考）エージェントの設定：権限およびその他の設定

ユーザに許可する権限やエージェントへのアラートの表示、アップデート設定などを行うことができます。



3-1-4 ポリシー設定 – Android 端末の設定

この項では、Android 端末のマルウェア対策に関わるポリシーを設定します。

【手順①】

管理コンソール画面で「ポリシー画面（デバイス（初期設定））」をクリックします。



【手順②】

「ポリシーの設定：デバイス（初期設定）画面」が開くので、Android のアイコンをクリックします。



検索設定

「リアルタイム不正プログラム検索」をオンにします。この設定はデフォルトでオンになっています。



（参考）Webレピュテーション

Webレピュテーションの機能により、不正なWebサイトをブロックし端末を保護することができます。

（以下の記載例はデフォルトの設定）

ポリシーの設定: デバイス（初期設定）

対象とサービスの設定

Windows Apple Android iOS

● 検索設定

● **Webレピュテーション**

● パスワード

承認済み/ブロックするURL

権限およびその他の設定

Webレピュテーション

Webレピュテーションは不正Webサイトの脅威からの保護を強化します。

☒ オン

セキュリティレベル

	危険	極めて不審	不審
<input type="radio"/> 高	⊗	⊗	⊗
<input checked="" type="radio"/> 中 (初期設定)	⊗	⊗	
<input type="radio"/> 低	⊗		

☒ Webサイトのアクセスをブロックします ①

未評価のURL

☐ トrendマイクロによる評価が完了していないWebサイトをブロックする ①

保存 キャンセル

（参考）権限およびその他の設定

端末のセキュリティエージェント上で、ユーザ実行/設定変更できる項目を指定することができます。

ポリシーの設定: デバイス（初期設定）

対象とサービスの設定

Windows Apple Android iOS

● 検索設定

● Webレピュテーション

● パスワード

承認済み/ブロックするURL

権限およびその他の設定

権限およびその他の設定

指定した設定をセキュリティエージェント上で有効化/無効化または実行することをユーザに許可します。

☐ リアルタイム不正プログラム検索、Webセキュリティ設定 ①

☐ パスワードリモート管理設定 ①

保存 キャンセル

3-2 チェックリスト 7-3 への対応

本製品では、セキュリティイベントのログの確認やセキュリティイベントのレポートを配信する設定を行うことができます。
セキュリティイベントのレポートを用いて、テレワーク環境で不審なイベントが発生していないか定期的に確認することで、**セキュリティインシデントの被害が拡大するリスクを低減することができます。**

3-2-1 ログの確認

管理コンソール上でセキュリティリスクの検出ログ、web コンソールのイベントログ、各端末のセキュリティエージェントのイベントログなどを確認することができます。

【手順①】

管理コンソールにログインして、「ログ」をクリックします。



【手順②】

「セキュリティリスクの検出:すべて」をクリックし、確認したいイベントにチェックを入れ、「適用」をクリックします。
このとき、ログの表示期間も同時に指定することができます。



【手順③】

詳細を確認したい端末をクリックすると、端末の「情報」と「イベント」を確認することができます。

<div> <div>ウイルスバスター ビジネスセキュリティサービス</div> <div>10:08 UTC+09:00</div> <div>?</div> <div> </div> </div>		ログ		
<div> <div>セキュリティエージェントイベント</div> <div>過去7日間</div> <div>4件</div> <div>エクスポート</div> <div>リフレッシュ</div> </div>				
<div> <div>ダッシュボード</div> <div>セキュリティエージェント</div> <div>ユーザー</div> <div>ポリシー</div> <div>レポート</div> <div>ログ</div> <div>管理</div> </div>	日時 ↓	エンドポイント	グループ	処理/結果
	2021年02月10日 15:08:30		デバイス (初期設定)	セキュリティエージェントにコンポーネントのアップデート通知を送信しました
	2021年02月9日 16:34:52		デバイス (初期設定)	セキュリティエージェントにコンポーネントのアップデート通知を送信しました
	2021年02月9日 16:32:41		デバイス (初期設定)	セキュリティエージェントにコンポーネントのアップデート通知を送信しました
	2021年02月9日 16:32:39		デバイス (初期設定)	セキュリティエージェントにコンポーネントのアップデート通知を送信しました

「情報」タブからは、端末の詳細を確認することができます。

すべてのセキュリティエージェント

<

「イベント」タブからは、イベントの詳細を確認することができます。

<div> <div>すべてのセキュリティエージェント</div> <div> </div> <div>タスク</div> <div> <div>情報</div> <div>イベント</div> </div> </div>			
<div> <div>セキュリティリスクの検出: すべて</div> <div>過去7日間</div> <div>脅威/違反</div> <div>検索</div> </div>			
受信 ↓	カテゴリ	脅威/違反	ファイルのパス/対象
イベントが見つかりません。			

3-2-2 レポート設定

この項では、管理コンソール上でセキュリティのイベントに関わるレポートを PDF 形式でメール受信できるように設定を行います。

【手順①】

管理コンソールにログインして、「レポート」を開き、「追加」をクリックします。



【手順②】

レポート設定画面が開くので、「一般設定」欄で任意のレポート名を入力し、「検索」欄でレポートの生成間隔を指定し、「対象」欄ですべての端末か特定のグループを対象にするか選択します。

レポート設定

一般設定

レポート名:*

テストレポート

検索

☐ 1回限り
☒ 週1回
☐ 月1回

間隔

月曜日

生成開始時刻: 01 : 00

対象

☒ すべてのエンドポイント
☐ グループ

「レポートの内容」欄で確認したいセキュリティイベントを選択して、レポートの受信メールアドレスを入力して「保存」をクリックします。

レポート設定

すべてのエンドポイント

グループ

レポートの内容

+

すべてのセキュリティイベント

+

ウイルス/不正プログラム

+

スパイウェア/グレーウェア

+

Webレピュテーション

+

URLフィルタ

+

挙動監視

+

デバイスコントロール

+

ネットワークウイルス

受信者

メールアドレス:

例: user1@example.com; user2@example.com

注意: メール通知で、生成済みのPDFレポートを添付するには、[管理]→[レポート設定] で設定を有効にします。

保存

キャンセル

30 / 39

4 利用者向け作業

ここでは「中小企業等担当者向けテレワークセキュリティの手引き（チェックリスト）」の第2部に記載されているチェックリスト項目のうち、本製品の利用者が実施すべき対策の設定手順や注意事項を記載します。

4-1 チェックリスト2-1への対応

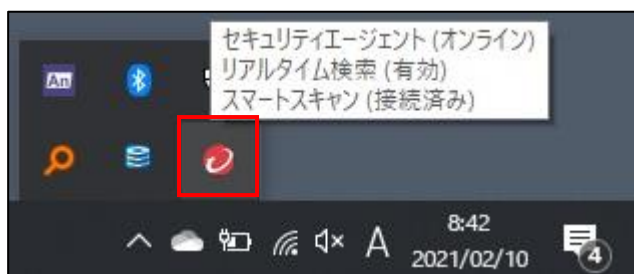
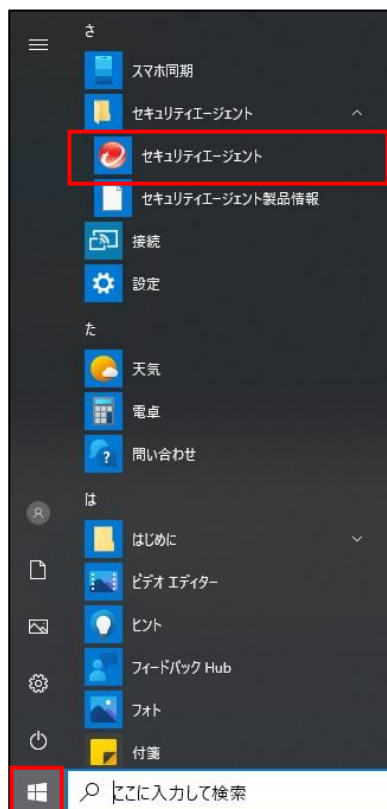
4-1-1 リアルタイム検索と自動アップデート

リアルタイムでの保護を有効にすることで、**テレワーク端末がマルウェアに感染した場合に即座に検知、防御することができます**。ウイルスバスタービジネスセキュリティサービスでは、リアルタイム検索はデフォルトで有効になっており、自動アップデートは1時間ごとに行われます。そのため、基本的に手動アップデートや手動検索は不要ですが、手動で実施する場合は、下記を参考に実施してください。

（参考）Windows 端末での手動アップデートと手動検索

【手順①】

スタートメニューの「セキュリティエージェント」からセキュリティエージェントを起動します。またタスクバーの通知領域の「セキュリティエージェント」アイコンから起動することもできます。



【手順②】

● 手動アップデートの実行

セキュリティエージェントの「アップデート」をクリックすると、手動でマルウェアの定義ファイル等をアップデートできます。



● 手動検索の実行

セキュリティエージェントの「検索」をクリックし、検索するフォルダを指定して「検索」をクリックすると手動で検索できます。



（参考）macOS 端末での手動アップデートと手動検索

【手順①】

Trend Micro セキュリティエージェントをクリックし、「セキュリティエージェントコンソールを開く」をクリックします。



【手順②】

●手動アップデートの実行

「アップデート」をクリックすると、手動でマルウェアの定義ファイル等をアップデートできます。



●手動検索の実行

「検索」をクリックすると端末内のファイルの検索方法として、「クイック検索」「カスタム検索」「コンピュータ全体の検索」が選択できます。必要に応じてそれぞれの検索方法で検索します。



（参考）Android 端末での手動アップデートと手動検索

ホーム画面から、「VBBSS」をタップし、アプリを起動します。

バージョン 2.0.0 以降の Android エージェント(2023/7/31 以降にインストール)の場合は、「Mobile Security for Business」をタップし、アプリを起動します。

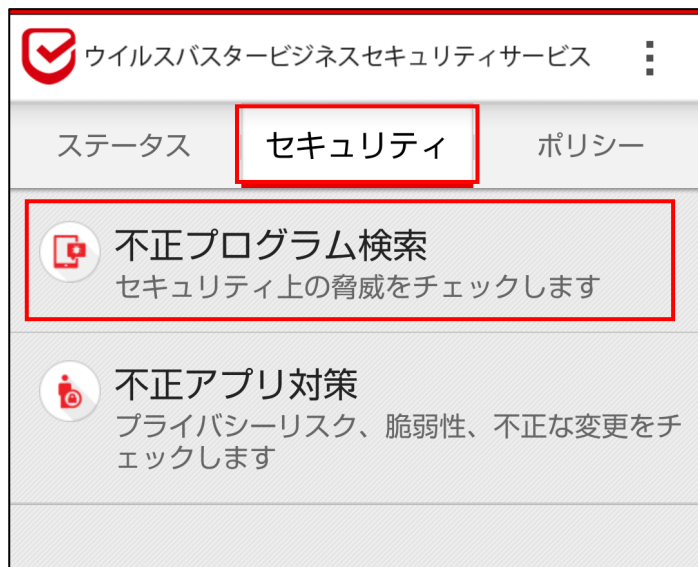


●不正プログラムの手動アップデートと手動検索の実行

【手順①】

バージョン 9.x(2023/7/31 より前に公開されたバージョン)の場合：

「セキュリティ」をタップし、「不正プログラム検索」をタップします。



【手順②】

手動検索する場合は「検索開始」をタップし、手動アップデートする場合は「パターンファイルのアップデート」をタップします。



バージョン 2.0.0 以降(2023/7/31 以降に公開されたバージョン)の場合：

手動検索する場合は、「検索」タブを開き、「検索」をタップします。

本バージョンでは自動アップデートされるため、手動アップデートのメニューはございません。

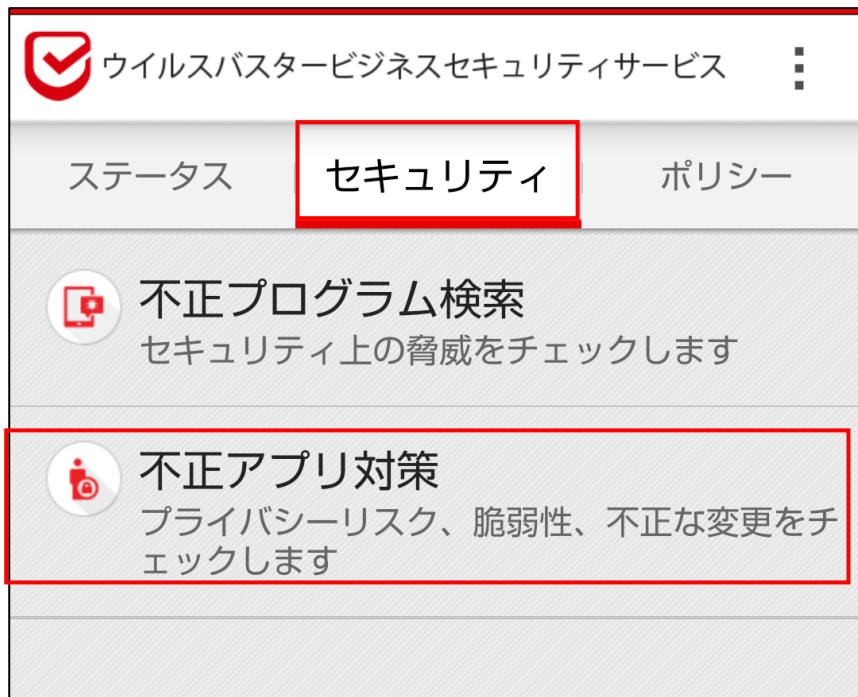


●不正アプリ対策の手動検索の実行

バージョン 9.x(2023/7/31 より前に公開されたバージョン)の場合：

【手順①】

「セキュリティ」をタップし「不正アプリ対策」をタップします。



【手順②】

「検索開始」をタップします。



バージョン 2.0.0 以降(2023/7/31 以降に公開されたバージョン)の場合：
「検索」タブを開き、「検索」をタップします。



【謝辞】

本設定解説資料の策定及び更新を行うにあたっては、トレンドマイクロ株式会社の関係各所の方々に多大なるご協力をいただきました。この場をお借りして深く御礼申し上げます。